体験が、未来の糧になる。

ここでしか得られない学びがある。
この学びでしか得られない力がある。

島根大学教育学部附属教育支援センター

1000時間体験学修

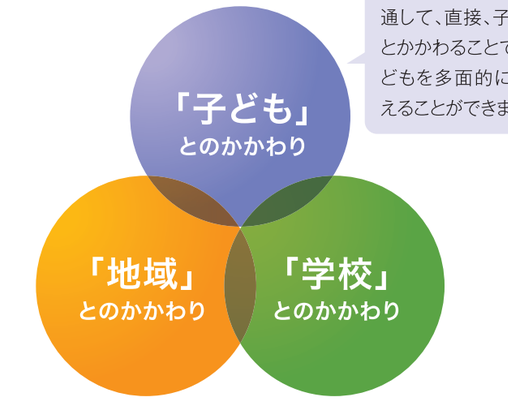
全国で唯一の「1000時間体験学修プログラム」。

教員としてどのように子どもや保護者と接していくのか、どのように教育活動を行うのか…。教育現場で直面する、このような実践的な問題に対応できる力を十分に養えないのが、理論的学修を中心とする従来の教師教育でした。それを克服するのが、本学部の「1000時間体験学修プログラム」です。さまざまな教育活動や地域活動に参加して行う「基礎体験」、附属学校園での教育実習とカウンセリングや教育相談などの実習による「学校教育体験」の2領域の体験学修を、4年間を通じて積み上げながら、教員として必要な教育実践力を身につけていきます。

基礎体験領域　さまざまな社会的体験が、教員に必要な資質の土台を育む。

「基礎体験領域」とは、地域の小・中学校での学習支援、放課後・休日の子どもたちの活動支援、地域行事等への参加を通じて、子ども・地域・学校と主体的にかかわりながら、教員に必要な社会性や豊かな人間性を育成する場です。
地域の学校、社会教育施設、福祉施設、民間団体、NPO法人などが実施するさまざまなプログラムの中から、興味・関心のあるものに参加して学修します。活動を通して自分の課題に「気づく」、その課題の解決に向けた活動の方向性を「つかむ」、活動への取り組みを「深める」という段階を経ながら進めていくのが、学修の基本的な流れです。

活動する3つのフィールド

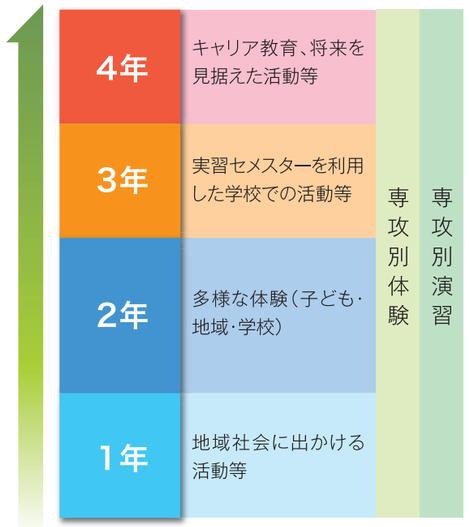


地域の様々な活動を通して、直接、子どもとかかわることで、子どもを多面的にとらえることができます。

地域づくりや地域の活性化に向けた取り組みなどにかかわることで、地域社会の一員としての自覚と責任感を身につけることができます。

授業補助や部活動指導など授業や学校の様々な活動にかかわることで、学校理解を深めることができます。

基礎体験活動の積み上げ



※2年生終了までに選択体験活動を120時間以上時間認定されていることが学校教育実習Ⅲの履修資格となります。

体験してこそ分かることがある。体験でしか学べないことがある!

基礎体験活動の様子と学生の学び

子ども

例）学童クラブ等支援活動、適応指導教室、キャンプ指導補助など

クリスマス会の支援活動

宿泊研修支援

学童クラブ支援活動

voice

子どもたちの笑顔は、私たち教育学部生にとって、何よりも最高の喜びです。1000時間体験学修で山陰両県のいろいろな所へ出かけていきますが、子どもたちの楽しそうな姿を見るととても嬉しくなり、もっともっと楽しませたくなります。また、回を重ねるごとに、活動内容や時間配分、安全面への配慮など、子ども目線で活動を見直すようになり、子ども理解や企画力が身についてきていると思います。子どもたちのために今、自分ができることは何かを考え、行動し、子どもたちと一緒に成長していきたいと思います。

地域

例）地域イベントや公民館事業、環境保護活動など

地域イベントでの支援活動

科学教室での支援活動

交流センター事業での支援活動

voice

子ども達と関わるだけでなく、保護者の方や私たちと同じくらいの年齢の方、また乳幼児や高齢者の方々など、高校生の頃や普段の大学生活ではなかなか接することがないような幅広い年齢層の方々と関わることができてとても新鮮でした。
その中で、ゲームのコーナーをお手伝いさせていただきましたが、子ども達が夢中になって遊んでいて、何度もやりに来てくれたことがとても嬉しかったです。保護者の方も「ぜひ家でもやってみたい。」とおっしゃっていただいて嬉しく感じました。自分自身にとってとても充実した活動になりました。

学校

例）小中学校学習支援、保育園幼稚園支援、放課後学習支援など

書写の学習支援

算数の学習支援

体育の学習支援

voice

「先生、わかった。」の一言が最高の喜びです。子どもたちの学習意欲はそれぞれですが、問題が解けた時は、みんな笑顔で輝いています。この笑顔をさらにたくさん見られるよう、指導の仕方を勉強しています。また音楽会や体育会など学校行事での支援活動では、子どもたちに寄り添いながら、一緒に練習したり励ましたりします。一人ひとりにどんな声がけや支援をしたら良いのか、活動する中で考え学んでいます。学校での体験活動を通して教師という仕事は本当に大変だなと思いますが、それ以上に子どもの成長に関わることができるとてもやりがいのある仕事だなと思います。

学生の皆さんは、島根県全県下および鳥取県西部を中心とした学校や、その他の教育機関、社会教育施設、民間団体、NPO法人などの方々から応募されてくる多数の活動の中から、自分で選択して活動します。

学校教育体験領域 1

1年から4年まで継続的・体系的に学校教育実習で学ぶ。

「学校教育体験領域」とは、附属幼稚園・小学校・中学校での360（臨床・カウンセリング体験（60時間）を含む）時間を必修とする充実した教育実習を通して、教員に必要な教育実践力や資質を身につけていくものです。
教育実習は、4年間を通じて、子どもとのふれあい体験、授業観察、授業計画・設計、授業実践、学級経営のトレーニングなどの段階を踏みながら体系的に行われます。また、大学の講義や演習で学んだことを教育実習で生かしたり、教育実習で得た疑問や関心に基づいて大学での研究を進めたりするなど、理論的学修とリンクさせながら学びを深化させ、スパイラル的に教育実践力や資質の向上を目指しているのも特徴です。

学びの仕組み

大学の講義と附属学校での教育実習が相互に関連しながら、1年から4年まで段階的にステップアップし、未来の教師を育てます。

育成する能力

授業を観察・分析する力
授業を「観察する」「記録する」「仲間と協議する」という体験を通して授業の構造を理解します。わかりやすい授業に隠されている教師の工夫を見つけることができるようになります。

授業を構想する力
教材研究と教材および学習指導案を作成し、模擬授業を通して指導案の検討を進める中で、授業を構想する力を育てます。

授業を実践する力
これまで培ったスキルを基盤に、実際に子どもの前で授業を実践することになります。教科や教える内容についての専門的な知識と授業を行うパフォーマンス力が実習の中で融合されます。

「教師力」育成のスパイラル構造

教師（授業のプロ）に必要なスキル（技能）を習得

1年 教わる側から教える側へ

学校教育実践研究Ⅰ［20時間］

教師に必要なコミュニケーション能力（話す・聞く）の基礎を養います。また「授業」を教師視点で観察するトレーニングは、これからの教育実習の基盤となります。

学校教育実習Ⅰ［20時間］

附属幼稚園・小学校・中学校で5日間の授業観察実習を行います。授業を「観察する」「記録する」「協議する」という3つの体験を通して、「教師」を初めて体験します。

2年 授業設計の基礎を培う

学校教育実習Ⅱ［20時間］

2年生では主専攻ごとに実習を行います。附属学校で主専攻の授業を観察して授業について協議したり、指導案や教材の作成にかかわる活動をしたりします。また、模擬授業演習を行うことによって授業をつくる体験をします。

3年 授業実践力を身につける

学校教育実践研究Ⅱ［40時間］

「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ」の事前・事中・事後指導です。児童、生徒とのかかわり方や具体的な教材の指導法について学習します。

学校教育実習Ⅲ・Ⅳ［160時間］

主専攻に対応した附属小学校・中学校での4週間の教育実習です。（Ⅲで1週間、Ⅳで3週間）これまで学んだ内容をもとに実際に自分で授業を行います。

学校教育実習Ⅴ［40時間］

副専攻の校種教科で実習を行います。学齢期にある子どもの「成長」、「発達」をより長いスパンから捉え子ども理解を深めます。

4年 授業実践力の向上と専門へ

学校教育実習Ⅵ［40時間］（選択）

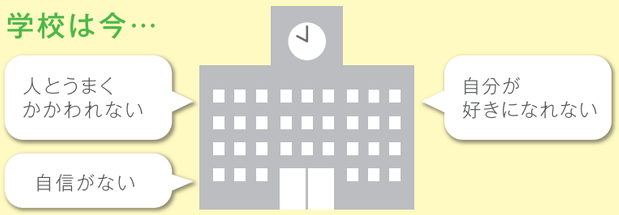
3年間の実習を基礎に、教職志向に応じ希望者が主体的に履修する教育実習です。副専攻での学習を深めるとともに、これに対応した校種・教科で行います。それぞれの目的に応じて1週間の実習を行います。

学校教育
体験領域
2

臨床・カウンセリング体験
～3つの視点から「カウンセリングマインド」を育てる～

「臨床・カウンセリング体験」では、いじめや不登校、学級崩壊などの教育的課題について理解を深め、これらの課題に対応する上で必要となる「カウンセリングマインド」を養います。
「生徒指導・進路指導・保護者支援」、「子ども理解・学級集団形成」、発達障がいなどによって特別な支援の必要がある子どもとその保護者を対象とした「特別支援教育相談」の3つの視点から、実習を中心に学びます。実習は、相談場面を想定した2人1組で、聞き手と話し手の役割を決めて話し合うロールプレイ、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループワークなどを通じて行われます。

学校は今…



子ども一人ひとりのこころのニーズをとらえ、確かな支えができる力が必要です。

育成する能力

カウンセリングマインド　相手の気持ちを理解し、相手の気持ちに添ったかかわりができるようになるための知識・技能・態度。

3つの実習

実習① 生徒指導・進路指導・保護者支援(C系)

コミュニケーションスキルなどの実習を通じて、自身のコミュニケーションの特徴をふりかえり、自己理解を深め、自己課題の把握を試みます。

実習② 子ども理解・学級集団形成(G系)

グループディスカッションや演劇などの体験を通じて、自己表現・協力・リーダーシップ等を学びます。

実習③ 特別支援教育相談

LD児、ADHD児などの特別な支援の必要がある子どもに関する理解や、保護者相談・校内支援体制づくりなどを実践的に学びます。

学校教育実践研究Ⅰ・学校教育実習Ⅰでの学び

voice

島根大学教育学部では1年生の6月から教育実習があると知り、「大学に入学したばかりなのに大丈夫だろうか。」とドキドキしていました。しかし、教育実習に行く前に、学校教育実践研究Ⅰで授業を見るポイントを学んだり、児童・生徒の前で自己紹介する練習をしたりすることを通して安心して教育実習に臨むことができました。教育実習Ⅰでは、主に附属学校園での授業観察と観察した授業についてグループで協議をしました。授業観察や授業協議を繰り返す中で、少しずつ、「教わる側から教える側へ」と意識が変わっていくのが感じられました。

学校教育実践研究Ⅱ・学校教育実習Ⅲ・Ⅳでの学び

voice

教育実習Ⅲの1週間は、自分の配当学級の児童・生徒の様子や、担任の先生の学級経営をしっかり見ようと心掛けました。ここで児童・生徒の実態をつかみ、本実習である教育実習Ⅳに備えるためです。教育実習Ⅳは授業実践を含めた長期間の実習でしたが、学校教育実践研究Ⅱで附属学校の生活について学んだり、教育実習Ⅲでの観察を生かして事前に指導案を作成したりして、気持ちのゆとりをもって臨むことができました。学習指導や生活指導が上手くできないこともありましたが、授業を通して児童・生徒としっかりとふれあい、教職への夢がますます膨らみました。

C系（カウンセリング系列）授業での学び

voice

生徒・児童と関わる前にどのようなコミュニケーション・スキルが必要なのかを学ぼうと思っていましたが、結局自分自身のことを見つめなおす時間になりました。最初は自分自身のことを話すのに抵抗がありましたが、聴き手に「プチどん底体験」を共感して聴いてもらって、受け入れられた感覚がありました。ワークが終わってから考えてみると、活動前よりも相手に親近感や尊敬の気持ちが生まれていました。人と話や気持ちを共有することが、自分を認め相手を認めて、互いにつながることを実感する授業です。

G系（グループアプローチ系列）授業での学び

voice

自分の意見や価値観を理解してくれる人がいるかどうか不安で、以前はグループでの活動があまり好きではありませんでした。苦手な人やこれまであまりしゃべらなかった人たちとも、一緒に活動して一つのもの作り上げていくのが、こんなにも面白く、達成感があるものだとは、思ってもみませんでした。最初は距離のあったメンバーが、劇創作のために少しずつ近づきあい、適したタイミングで役割を自然とこなしていく協調性が、笑いと共に醸成されていくのを目の当たりにした授業です。

1000時間体験の領域と時間

	必修時間 460時間（全員が同じ内容を体験します）		選択時間 540時間（自分で選択した内容を体験します）
体験領域	**基礎体験領域** ● 入門期セミナー ● 介護等体験 ● 基礎体験セミナー （地域理解セミナー，スタートアップセミナー，基礎体験交流会，充実期セミナー，応用期セミナー，発展期セミナー）	100	● 基礎体験活動（選択） ● スクール・インターンシップ ● 専攻別体験 ● 専攻別演習 ● 学校教育実習Ⅵ　等
	学校教育体験領域 ● 学校教育実習Ⅰ～Ⅴ ● 学校教育実践研究Ⅰ ● 学校教育実践研究Ⅱ ● 臨床・カウンセリング体験	360	

1000時間体験は島根大学教育学部を卒業するために、大学で取得する単位以外に必要なものです。
このパンフレットの内容を理解して、計画的に体験時間を蓄積してください。

基礎体験領域の申し込み方法と時間認定までの流れ

01 センター掲示板やWEBから希望する活動を選択
▶
02 パソコン（WEB）で申し込み手続き
▶
03 事前指導
▶
04 活動
▶
05 事後指導（事後指導後に活動記録票を教員に提出）
▶
06 時間認定

※学校教育体験領域では、随時事前オリエンテーションが実施されます。

問い合わせ
島根大学教育学部附属教育支援センター
（教育学部棟141室）
〒690-8504　島根県松江市西川津町1060
TEL.0852-32-9836　FAX.0852-32-9846
HP http://www.edu.shimane-u.ac.jp/aces/
島根大学 教育支援センター　検索